分子研OBが語る■OBの今

やりたいことをやる

伊藤　光男
（分子科学研究所名誉教授、特別顧問）

いとう・みつお／1970年東北大学教授、1993年分子科学研究所長、1999年岡崎国立共同研究機構長、2001年退職後水彩スケッチを楽しんでいます。

2001年に岡崎を退職し東京に移って6年になります。退職と同時に研究、教育とは縁を切り、趣味にしている絵を中心にした生活を送っています。

絵を描き続けたい

趣味の絵をはじめて27年になります。この間、東北大、分子研、岡崎国立共同研究機構、退職後といろいろと環境は変わりましたが、絵を描きたいという想いは一向に衰えません。現役時代は描く時間がなかなかとれず、かなり無理をしました。国内外各地で学会や会議を抜け出してスケッチしているところを多くの知人に見られ身の縮むおもいを度々しました。退職し自由になったら、周囲の目を気にすることなく思う存分描いてみたいと思っていました。現実には予期せぬこともいろいろあり絵だけに専心することはできませんが、それでも常々スケッチしたいと思っていた外国にも数回出かけ、国内各地へのスケッチ旅行をし、また東京を中心に毎週2日程度スケッチに出歩いています。この間、毎年10月に個展を開き、今年で8回になります。毎回、多くの方にお出でいただき、最近では一週間の会期中に600名を超える来場者があり、また年一回旧知の方にお会いできる貴重な場になっています。個展の案内状の一部を添付しました。上2枚は2006年の個展“つれづれに　Ⅶ”の案内と水彩スケッチです。下左は“つれづれに　Ⅲ”（2002年）、下右は“つれづれに　Ⅵ”（2005年）のそれぞれの案内状につけた水彩スケッチです。その他、4冊の画集“つれづれに　その1,2,3,4”、2冊の画文集“思い出すまま　その1,2”を出版し、一応の成果は挙げたと思っています。相変わらず下手な絵ですが、今後も続けたいと思っています。

仕事以外のことにも打ち込む

ところで以前、基礎研究をやっていた頃、スケッチを楽しんでいる時、研究面で思い悩んでいたことにアーそうだったのかと気づき、その後意外な展開をしたことが再々ありました。これは絵にかぎりませんが、われわれは仕事から離れていても抱えている問題を常に考え続けていて、仕事以外の異質の行為に触発されるのではないでしょうか。このような私の経験から、現役時代から仕事以外に打ち込めるものを持つことは仕事にも大いにプラスだと思います。まして仕事がなくなった時はそれが生きがいになるのです。現役時代は忙しくてそれどころでなく、定年になって時間ができたら考えるという人が多いですが、それでは遅いのです。本当にやりたいことはどんなに忙しくてもやらなければ本物ではありません。

やりたいことをやった研究時代

研究でも同じようなことがありました。役に立つかどうかわからない基礎研究に何故一生懸命になるのか—正直のところあまり考えたこともありませんでしたが、理屈なしにやりたいからやるということだったと思います。やりたい理由は単純に面白いから、やりがいがあるからということだったと思います。社会や文化に貢献するというような高邁な精神は全くなく、ただ好奇心に駆られてやりたいことをやったという感じでした。やりたいことを通したため、時流に乗れず、研究費もとれない状況でしたが悔いはありません。現在はわれわれの時代には考えも及ばなかったような多額の研究費が出ており、研究環境は格段によくなっています。にも拘わらず、皆さんが本当にやりたいことをやっているのか疑問に思うことがあります。研究費のとりやすいことに走るあまり、自分が真にやりたいことが何かも見失っているようにみえます。これは本末転倒です。どんな状況におかれようとも、自分がやりたいことをしっかり見据え、やり通す強い意志と行動が真の基礎研究の発展には不可欠です。分子研はやりたいことをやれる場でした。今後もやれる場であることを願っています。私は絵をやり通します。

post card

――― つれづれに VII ―――

伊藤光男　水彩画展

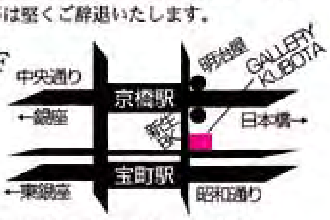
2006年 10月9日(月) ~ 15日(日)
11:00~18:00　最終日16:00まで

東京のスケッチを中心とした水彩画展です。

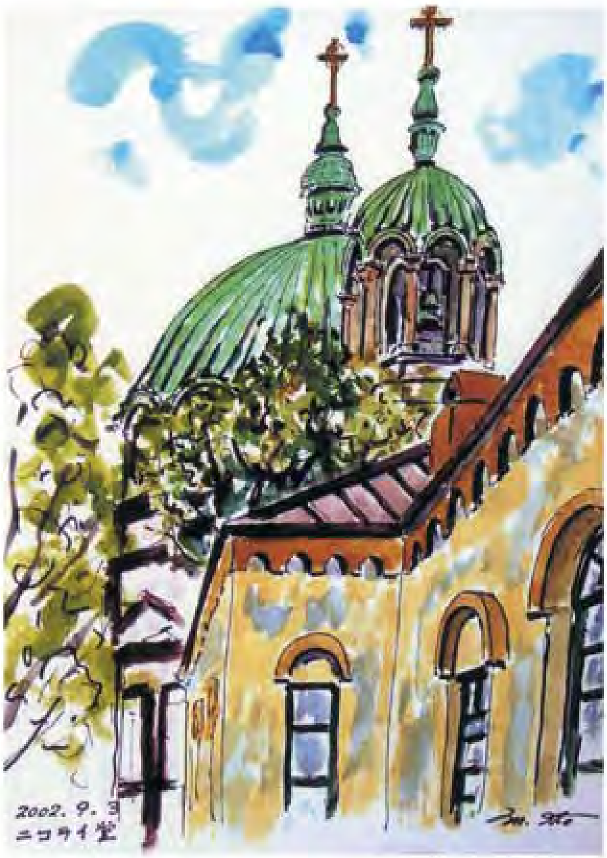
なお、お花、ご祝儀等は堅くご辞退いたします。

ギャラリーくぼた 3F

東京都中央区京橋2-7-11
TEL. 03-3563-0005
地下鉄銀座線京橋駅下車
6番出口徒歩1分

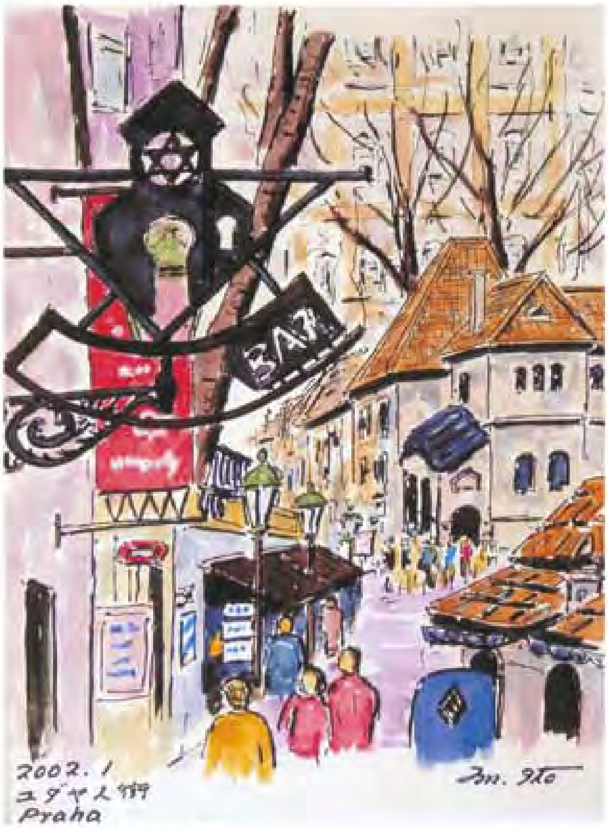


連絡先　〒112-0012　東京都文京区大塚3-3-14-402



ニコライ堂　24×33cm

カナダ　ケベック　22×28cm



プラハのユダヤ人街　22×28cm